

2010年度第1回医療安全分科会に参加して

熊本機能病院神経内科 渡邊 進



グループワーク風景

2010年10月30日(土)、31日(日)に、東京表参道の日本看護協会にて本分科会が開催されました。テーマは「医療安全のための根本原因分析とチーム医療のスキル」が掲げら

れ、臨床現場で実際に役立つことを目的に、グループワークを取り入れた分科会でありました。

初日午前、武藤正樹先生の講演「日本医療マネジメント学会の医療安全への関わり」で重大事故ゼロをめざしてチーム医療の重要性について学び、次に厚生労働省医政局の高崎洋介先生に「医療安全の現状」について講演をいただきました。

午後は、藤田茂先生より講演「医療安全の最近の動向とRCA(根本原因分析)」があり、医療事故を医療システムの問題として捉え、その事故の代表的な分析手法RCAについて長所・短所、導入時の注意・工夫について学びました。その後、グループに分かれ、事象例「外来化学療法で他患者の抗癌剤を追加的に投与した事象」を用いて、RCAそして対策についてグループワークを行い、発表が行われました。RCAが事故に対する真の原因を探る手法であり、情報の整理、組織としての問題の改善(再発防止)、情報の正確な伝達へ繋がるということを経験できました。

2日目は、種田憲一郎先生より、「チーム医療」を実践するための具体的な方法「チームSTEPPS:エビデンスに基づいたチームトレーニング」について学びました。「チームSTEPPS」は、科学的エビデンスに基づいた、医療の質、患者安全向上のためのチームワーク・システムです。「リーダーシップ」「状況モニター」「相互支援」「コミュニケーション」のスキルを実践することで、チームのパフォーマンスが向上します。グループ研修では、救急でのビデオ、各施設の事象を用いて、上記4項目のスキルとその課題を解決し得るツールの検討を行いました。さらにそのツールを用いて、患者安全が担保できるシナリオを作成し、11グループがロールプレイにて発表を行いました。チームSTEPPSの基礎知識の習得および体験ができました。

今回の分科会は、医療安全のための分析とチーム医療について短時間で基本が習得できる工夫を凝らした分科会でした。企画と運営を準備していただいた、坂本すが先生、講師陣、スタッフの方々に感謝申し上げます。来年も更に充実した研修会の企画をお願いいたします。

2010年度第1回医療安全分科会に参加して

北九州市立医療センター 向野立代

2010年10月30日(土)、31日(日)に、東京にある日本看護協会に於いて、本分科会が開催されました。

80名が11グループに分かれ、「人は誰でも間違える」と言う事をふまえ、組織の安全文化を根付かせるための分析方法、チームワークシステムについて、グループワークを多く取り入れた分科会でした。

1日目、日本医療マネジメント学会の活動・医療安全の現状についての講義があり、午後から、失敗を活かすための事故分析としてRCAの手法の解説、事例分析をグループごとに行ないました。分析に必要な手法の注意点を事例を通して分かりやすく解説して頂き、再発しにくいシステム志向の原因究明をすることの大切さを確認できました。

2日目は、チーム医療を実践するための具体的な方法をチームSTEPPSというチームワークシステムを通して学びました。各グループの参加者が経験した事例に対し、「リーダーシップ」「状況モニター」「相互支援」「コミュニケーション」の4つのコンピテンシーを様々なツールを用いて解決するロールプレイを行ないました。参加者の演技力に驚いたり、笑わされたり、その中でみんなが同じような悩みを持っていることに共感する事が出来ました。ツールを用いて伝えることや受け止める事が出来るよう、チーム力を高めるために安全文化を醸成する事が必要だと痛感しました。

支部学術集会開催報告

第5回宮城支部学術集会

世話人：財団法人仙台市医療センター仙台オープン病院院長 宮川菊雄



会場風景

2010年7月17日(土)、本学会第5回宮城支部学術集会が、世話人の仙台オープン病院院長宮川菊雄先生のもと、宮城県仙台市・仙台市医師会館にて開催されました。参加者は187名、安全管理、業務改善、地域連携、医療機器、医療体制、感染管理、薬剤管理と、様々な部署から36の一般演題が寄せられ、発表、質疑応答が行われました。

特別講演は、「病院機能評価Ver.6の受審に向けて」と題し、日本医療機能評価機構理事で社会保険横浜中央病院院長でもいらっしゃる大道久先生が、昨年7月から運用開始された病院機能評価Ver.6の新たな評価視点を中心に、継続的な医療機能の維持や改善努力の重要性などについてお話し下さいました。

(次頁へ)